



## 「かまいたち」ってどうして起こるの

### よくわからない

「かまいたち」とは、旋風（つむじ風）に乗ってきて人を切ったり、生き血を吸うといわれる魔物で、イタチのしわざと考えられていたことから、このようにいわれています。また、神風が太刀を構える「構太刀」から、由来したという説もあります。

「かまいたち」によって、「かま」で切られたような傷を受けるが、痛みも出血も見られない、といわれています。

このような現象は、日本の各地に広がっていますが、特に雪国に多く見られていたようです。小さな旋風（つむじ風）の中に、真空（空気などの物質が、まったくない状態）の部分ができ、ここに人がさわると切れるといわれていますが、くわしいことはわかっていません。

### 「かまいたち」の性質

1850年、三好想山という人が、「想山著聞奇集」という本で、かまいたちの性質について、くわしくまとめました。それをいくつかあげると、次のようです。

知らないうちに、大きな傷ができる。初めは血が出ないで、痛みもないが、後からたくさん血が出て痛くなる。

初め傷口は白いが、後で黄色ににじんできるといわれる。

傷の長さは、2～3寸（1寸は3.03センチメートル）から5～6寸。深さは5～6分（1分は1寸の10分の1）から1～2寸。

人のまた、ひざ、すねにできる。

風にあたって切れるという説があるが、風がまったくなくても切れることがある。

（監修・村山 貢司）

